

令和7年度 学力向上を図るための全体計画

東京都 教育目標

- 互いの人格を尊重し、思いやりと規範意識のある人間
- 社会の一員として、社会に貢献しようとする人間
- 自ら学び行動する、個性と創造力豊かな人間

練馬区 教育分野目標

夢や目標を持ち、困難を乗り越える力を備えた子どもたちの育成

豊玉中学校 教育目標

人間尊重の精神に基づき、意欲をもって主体的に学び、社会状況の変化に対応できる逆境に負けないたくましさと、互いを認め平和を愛し、共存共栄を目指す心豊かで国際社会に貢献できる人間の育成を図るため、次の教育目標を設定する。

心身ともに健康で自主的に努力する誠実な人となることを目指す。

1 誠実 2 敬愛 3 努力

学校、地域の実態

- 生徒は素直で明るく朗らかであり、学習・行事・部活動に意欲的に取り組んでいる。開校 77 周年の歴史を有し、保護者・地域の方々は教育活動への関心も高く、協力的である。

期待される生徒像

- 自ら学ぶ意欲をもち、社会の変化に主体的に対応できる心豊かでたくましい生徒。

学校経営計画(学力向上にかかわる要点)

- 協働学習による課題解決的な学習を軸とした授業を工夫する。
- 体験的な学習活動を計画的に実施する。
- 教育のプロとしての授業力の向上を図る。
- 学校図書館を活用した教育活動を行うために、学校図書館の充実や近隣図書館との連携を図る。
- 評価規準を明確にし、指導との一体化を図る。

各教科の指導の重点

- 授業規律の徹底とリレーションづくりにより、話し合い活動のための土壌をつくる。
- 4 人組を軸に少人数グループ学習等を工夫し、主体的・対話的で深い学びを目指す。
- 自己表現力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力の伸長を図る。
- 課題を整理、分析、解決策を迅速にまとめる力を習得させる。思考ツール等を活用するなど、授業改善を確立する。
- 各教科で家庭学習を奨励し、自学自習の習慣を身に付けさせる。

総合的な学習の時間の指導の重点

- 体験的・啓発的活動を取り入れた「生き方学習」を展開し、「生き力」を学習する。
- 教科等横断的な学習に取り組み、課題解決力に向けた態度と力を身に付けさせる。
- 探求的な学習を行う。
課題設定→情報収集→情報の整理・分析
→まとめ・表現

キャリア教育の指導の重点

- 3 年間で系統立てて、3 年間で身に付けさせたい力を明確にしてキャリア教育の改善を図る。
- 望ましい勤労観、職業観を育む、目的を踏まえた取組内容を工夫する。
- 地域の人材を活用しながら、多様な考え方や生き方、社会情勢の変化を理解させる。
- 全校集会、学年朝礼、学年集会の講話を工夫し、人生観や生き方について考えを深めさせる。

本校における「確かな学力」

学習指導要領に示された基礎・基本を重視し、「学びの主体者」を育成する。

< 3 つの「学びスキル」 >

生きていく上で社会生活の基盤となる資質・能力を 3 つの「学びスキル」と定義する。

学びスキル① PDCA サイクルを回す

学びスキル② 意見をもって対話で深める

学びスキル③ 人間関係づくり

授業改善策の検証

- 教員同士の授業観察を通した対話をもとに検証を行う。
- 定期考査、日常の小テスト等を活用した検証を行う。
- 生徒の自己評価を活用した検証を行う。

道徳教育の指導の重点

- 人に対する思いやりや礼儀、他者との違いを理解し、認め合いながら生きる生徒を育てる。
- 夢や目標をもち、困難を乗り越え、幸福な人生の創り手となっていけるよう支援を行う。
- 外部講師等を活用した道徳教育の活性化を図る。
- すべての教育活動の中で人権教育を推し進め、いじめの未然防止、早期発見、早期解消に努める。

特別活動の指導の重点

- 他者と協働する様々な集団活動を展開する。
- 同年齢や異年齢の生徒、地域の人など様々な人と触れ合う体験を通して、集団や社会における生活及び人間関係を形成する。
- 自主的・実践的な活動を助長し、社会に積極的に参画する態度を育てる。
- 学級や学校の課題について議論し、主体的に解決できる自治能力を高める。

生活指導の指導の重点

- 生活指導部を核にした迅速な対応策の立案、課題への組織的な対応と共通実践を徹底する。
- 規範意識や基本的な生活習慣を確立させる。
- 生徒との直接対話を重視し、家庭訪問や定期的な面談等を活用して不登校生徒の解消を目指す。
- 生徒と話す機会を意図的に設け、生徒自身の抱える悩みを早期発見するとともに、自らも解決していこうとする気持ちを育てる。
- 家庭や関係機関と緊密に連携し、必要な支援を充実させる。
- 薬物、防犯、防災、交通安全、インターネットや SNS などの正しい知識を身に付けさせる。

本校の授業改善に向けた視点

指導内容・指導方法の工夫

- 個に応じた指導や学び合い学習を重視する。
- 数学・英語科では少人数指導をし、きめ細やかな指導を実践する。
- 4 人組など少人数グループ学習を取り入れ、主体的・対話的で深い学びの実現を図る。
- 言語環境を整え、コミュニケーション能力や言語の能力を高める。
- 単元テスト等を実施し、家庭学習の定着を図り学習意欲を高める。

教育課程編成上の工夫

- 夢手帳を活用して振り返りをさせることで、自己をメタ認知する力を育成する。
- 放課後の時間を活用して、補習や補講を随時行い、基礎学力の向上を図り、学習意欲を高める。

校内における研究や研修の工夫

- 学力向上プロジェクトを推進し、教職員間の対話を深め、授業改善に向けた意識づくりを行う。
- 教科、特別活動等の分科会において研究を深め、生徒の主体的な取組へとつながる授業デザインを検討、実践していく。
- 外部講師による研修を行う。
- 課題改善カリキュラムの開発、研究授業等を実践し、小中一貫教育の推進を図る。

評価活動の工夫

- 各授業において、自己評価や振り返りを積極的に取り入れ、生徒の評価能力を高める。
- 補助簿の作成・活用を図る。
- 教科部会において、評価規準・評価活動について情報交換し、評価の客観性を高める。

家庭や地域との連携の工夫

- 教職員、生徒の地域活動への参加を推進し、相互交流を図る。
- 総合的な学習の時間、教科授業等に地域の人材を活用し、話を聞いたり、共に活動したりする学習を設定する。
- 教員、保護者による校門指導や下校時の見回りを充実させ、生徒の登下校時の生活習慣を身に付けさせる。

小中一貫教育の視点

- 小中合同研修会を実施し、生徒が自分の意見や考えをもち、それを発信できるような学習内容や方法についての研究や検証を実践する。
- 「目指す 15 歳の姿」をテーマに、身に付けさせたい資質・能力を明確にし、育成に向けた共通の取組を検討、実施する。